

PRAEVIDENTIA DAILY (11月19日)

昨日までの世界：ユーロ圏景気減速懸念が後退

昨日は、ドイツ ZEW 期待指数が予想比大きく改善したことから、ユーロ/ドルが 1.24 ドル台半ばから大きく反発し 1.25 ドル台に乗せたのが特徴的だった。他方、ポンドは、英 CPI 前年比が+1.3%と予想通りながら前月から持ち直したものの、ポンドは軟調に推移した。

この間、ドル/円相場は上昇基調に回帰し、東京時間午後 7 時の安倍首相記者会見に向けて一時 117.03 円とほぼ前日の高値と同水準へ上昇した。その後首相記者会見で、内容的には追加消費増税の 1 年半延期と衆院解散総選挙を表明、概ね事前報道通りだったが、与党で過半数取れない場合に退陣すると表明した点が、与党敗北リスクとアベノミクスの継続性への懸念を意識させたためか、一時的にドル/円が下落し、NY 時間入りにかけて 116.34 円へ反落する局面も見られた。もっとも、その後は米コア PPI が前年比+1.8% (次頁の図を参照)、米 NAHB 住宅市場指数も 58 と、いずれも市場予想を大きく上回ったことから、米中長期債利回りは上昇しなかったものの、ドル/円は再び 116 円台後半へ持ち直している。

この間、NZ ドルは対米ドルで上昇基調だったが、世界乳製品取引 (GDT) オークション価格が前回比 3.1% 下落したことを受けて反落、前日比上昇率が縮小したかたちとなった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米2年金利差	米2年金利	日2年金利	米10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	+0.2	-0.01	-0.01	+0.00	-0.05	-0.02	+0.03	+0.5	+2.2	-1.2
	変化率	独2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロドル	+0.7	+0.02	+0.01	-0.01	+0.03	+0.00	-0.02	+1.1	+0.5	+0.01
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンドドル	-0.1	+0.02	+0.01	-0.01	+0.02	-0.00	-0.02	+0.6	+0.5	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.2	+0.01	+0.01	-0.01	+0.04	+0.02	-0.02	+0.5	-0.7	-0.6
	変化率	NZ米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+0.2	+0.01	+0.00	-0.01	+0.03	+0.01	-0.02	+0.5	-0.7	-0.6
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.1	-0.01	-0.01	-0.00	+0.00	-0.02	-0.03	+0.5	-1.4	-0.6

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。
(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：FOMC 議事要旨でハト派色が強くないことを確認

きょうの注目通貨：USD/JPY ↓

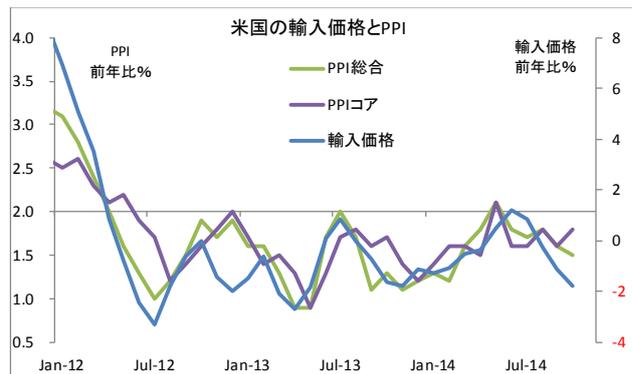
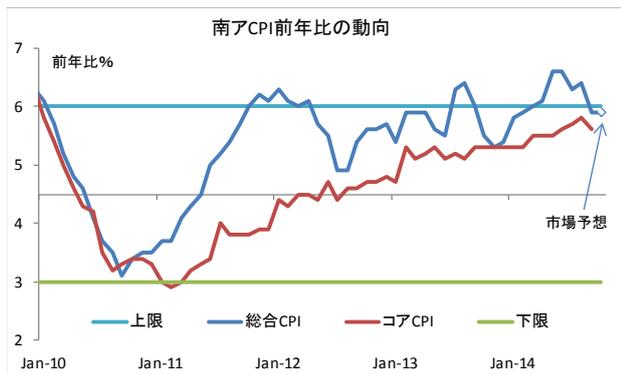
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
日銀金融政策決定会合	未定			市場予想は政策変更なし
黒田日銀総裁記者会見	15:30			
南ア 10 月総合 CPI 前年比	17:00	+5.9%	+5.9%	インフレ目標上限は 6.0%
英 BoE 議事要旨	18:30	7 対 2	7 対 2	
米 10 月住宅着工件数	22:30	102 万件	103 万件	
米 10 月建設許可件数	22:30	102 万件	104 万件	
米 FOMC 議事要旨	4:00			

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は米 FOMC 議事要旨 (10 月分) が注目だ。10 月 FOMC 声明文では、直前の 10 月半ばに Fischer 副議長ら

から世界景気減速やドル高のインフレに対する影響への懸念が表明されていたにも拘らず、これらの点については殆ど触れられず、むしろ労働市場の改善を指摘したことから、全体としてタカ派化したと受け止められた。議事要旨でこうした内容が再確認される場合には、FOMC のタカ派姿勢が再認識されドル買いに繋がる一方、実は世界景気減速、ドル高そして低インフレに対する懸念に関する議論が多かったことが明らかになる場合にはドル安材料となり、ドル/円は一時的に 116 円台前半への反落もあり得る。但し、その後ユーロ圏 3Q GDP は持ち直し、ドル高・原油安にも拘らずコア PPI が持ち直していることから（下図を参照）、10 月 FOMC 時点での懸念はあまり長く尾を引かないだろう。

日銀決定会合では、既に GDP 悪化に先手を打つかたちで前回会合で追加緩和を決定したことから、今回は据置が予想されている。むしろ黒田総裁記者会見で、これまで同様に円安が日本経済全体にとってポジティブという主張が繰り返されるかが注目、繰り返されない場合や円安の悪影響が強調される場合には、一時的な円買戻しのリスクがある。但し、金融緩和はインフレ目標達成に必要であるため、政策転換は当面想定できないことから、影響は一時的となるだろう。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641